

羽後学発表会 慶應義塾大学生からのメッセージNo.1

5つのグループごとに仲間と協働し、講師や大学生からのアドバイスに耳を傾けながら試行錯誤して進めてきた羽後学。慶應義塾大学生や外部講師の方には、高校生ではなかなか気づけないアドバイスをいただきましたので、これからの生活に活かしていきましょう。

観光ガイド 羽後町の観光スポットを訪問し、インタビューを行いました。盆踊り会館ではガイド体験にも挑戦。

○大学生Kさん

活動内容に対して自分たちの地元をガイドできるように自分たちで質問しながら情報を足で得ることに非常に価値があるなと思い、素敵な経験だなと思いました。地元を知っていると思って説明できるかといえば、なかなかできないことだと思います。羽後町の魅力を再認識できた経験が今後どのように生かされてくるのか楽しみです。活動お疲れ様でした。プレゼンに対してきちんと役割分担をして入れ替わりもスムーズで聞きやすかったです。スライドも綺麗にまとめられており、非常にわかりやすかったです。



とても良かったです。改善点をあげるとすれば、紙を見過ぎずに聞いている人の顔や反応をみながら発表するとよりよくなると思いました。今後について実際に他の県から来た観光客や中学生などに向けてガイドできる場があるといいのではないかと思います。やはりアウトプットがなければ、得た知識も忘れてしまうこともあるので、ぜひ羽後学で実際に学んだことを実践してほしいです。

○大学生Yさん

発表ありがとうございました。活動内容について、回ごとに順を追ってやったことを整理できていてとてもわかりやすかったです。活動の中で、実際にガイドをしてみるところまで行えたことが素晴らしいと感じました。とても貴重な経験だったのではないかと思います。自分の町を改めてきちんと観光するという視点がとても重要であり、これを機にまた地元に関心をもち、考えるきっかけに出来るといいですね。今後の活動についてもきちんとまとめられていて素晴らしいかったです。ここから更に、個人が具体的に発信した先に何を拠えているのか、また発信する際の目標まで考えられると更に学びが深まるのではないかと思います。今後の活動も頑張ってください、応援しています！

○大学生Sさん

発表ありがとうございました！観光というホットなテーマで羽後町の為に、自分たちが何をできるかというところから探し回ったのが、素敵だなと思いました！問題発見があってこそその問題解決なので。実際にガイドをする経験はなかなか出来ないと思うし、色々な地域で頑張っている方々へ伺うことが出来たのも良かったですね。

羽後町の魅力を再発見することも出来たようですし、その魅力をどう活かしていくかを考えられたらいいですね！情報発信の為に何が必要なのかも整理すると今後の活動が進みやすくなるでしょね！引き続き楽しみにしています！



○大学生Yさん

発表ありがとうございました！自分の足で羽後町を歩き、自分の目で羽後町を見て感じて来たと思います。自分たちが羽後町の魅力を伝えるにはどうすればいいか、観光客に見せたい羽後町はどのようなところかなど、自分の感覚と「相手からの視線」を意識しながらまとめてきたと思います。今回はコロナ禍の影響で実際にガイドをすることは

きませんでした。自分たちに今何ができるかを考えながら活動を続ける選択をして実際に続けてきたことはとても大切なことです！みなさんの活動力があってこそだと思います。このコロナ禍で羽後町を訪れることのできない観光客の皆さんに、羽後町の魅力をどうやって伝えていくか、この目の前にある新型コロナウイルスという課題、壁に打ち勝って、これからも頑張ってください！

応援しています！



羽後学発表会 慶應義塾大学生からのメッセージNo.2

踊らないと ミニイベントの企画立案と運営を行いました。生徒玄関をイルミネーションでライトアップしました。

○大学生Yさん

発表ありがとうございました。

やろうと思っただけは課題があって実現出来なくて、何回も考える過程はきっと大変だったと思います。しかし、そこから発想を広げて「玄関に装飾を飾る」という素晴らしいアイデアにたどり着いたことから、皆さんの頑張りが伝わってきました。

玄関に飾ったことで全校生徒がその飾りを見られることになったと思うのですが、何か反響はありましたか？1日の最初と最後に通る玄関が綺麗に飾られていることで良い影響を与えられていた

可能性もあるのではないのでしょうか。また、イベントを企画したのちに全校に発信し、やりたい人を募って大きな規模で実施できるとまた違った学びがありそうです。ぜひ、また雪が落ち着いたらこのようなワクワクすることをやってみてください。最後のまとめにあった「ワクワクを大事にすること」、とても素敵だと思います。これから色々な選択をすると思いますが、その時に大事にもらえるなら嬉しいです。お疲れ様でした！今後も応援しています。



○大学生Sさん

発表ありがとうございました！イベント企画、運営を目指すということは凄いやりがあって、楽しいこともあるけど、難しいことがたくさんでしたよね、たぶん。お疲れさまでした！

いろいろなアイデアを出して、それを実現する為に試行錯誤たくさん繰り返したんだろうなと思います。そして、校内にイルミネーションを装飾ということで、中々経験ができないことに立ち会えたのかなと思います。やりがいいがあったと言ってくれていましたが、その感覚と楽しさをずっと心に留めて置いてほしいです。最初に描いてものとは、

違う結果になってしまったと思うけど、その過程にこそ意義があるのかなと思います。是非、次は初志貫徹する為に何が必要か考えてみてね。引き続き、活動を楽しみにしています！

○大学生Nさん

活動お疲れ様でした！

4人の班なのに集合写真が7人だった点がすごく印象的でした。いいですね、協力してくれる人がいる環境って！メンバーだけで作業をするよりも格段にはかどったことと思います。今後に活かせることとして、今度は学生だけにとどまらず今度は先生や家族/地域の人にも協力をお願いしてはどうでしょう。ハードルが高ければ、まずは他学年の生徒にお願いしてもいいかもしれません。先生に協力をお願いしたら、倉庫から昔文化祭で使った装飾品が出てくるかも！家族や地域の人に相談したら雪の積もってない地域の施設や電線のない広場を貸してくれるかも！！



確かに、イベントを起こすときには事前の調査も必要です。ですが、

「どうしてもこれがやりたいんだああ！！」というものがあるならばそのことを周りの人に話して回るといいと思います。よほどのことでない限り、力を貸してくれる人が見つかるはずです！



羽後学発表会 慶應義塾大学生からのメッセージNo.3

UGONEWS 羽後町のカフェについて調査、取材し、記事をまとめた。講師の先生が手直してSNSで発信してくださいました。

○大学生Kさん

《活動内容に対して》

自分が興味をもつことは何か？ということから考え、取材まで実行できたことは素晴らしいことだと思いました！取材の時も積極的に質問したり写真をとったりしていたのが印象的です。今回は、時間が足りませんでした。最終的に記事にすることが目標ということで、どんな人にも見て欲しいのかなど意識して質問などを考えることができるとより、面白くなりそうだなと思いました。活動お疲れ様でした。



《プレゼンに対して》

実際の取材時に撮影した写真が多く使われており、とても良いなと思いました。さらにアニメーションが効果的に使われており見ていて飽きない工夫がされていたのも素晴らしいと思います。

《今後について》

自分の興味があることに積極的に質問したりして行って欲しいと思いました。また、その際に今回のインタビューの仕方などを活かしていくことができるのではないかと思います。

○大学生Yさん

発表ありがとうございました。羽後町について調べた上でインタビューをしたということで、身近で当たり前だけど知らなかった羽後町の発見があったのかなと思います。このチームは、具体的な活動の中でそれぞれの興味を打ち出し、個人のテーマにまで持っていきながらが大変素晴らしかったです。そして、ここから更に実践に近づけた活動にするためには「うごニュースに載せる」という状況の中で、見る人は誰なのか、そしてその人達はどんな情報を知りたいと思っているのかをある程度想定しながら、それぞれの興味を活かした上でテーマ案を練っていきると更に充実した発信をすることが出来るのではないかと思います。今はSNSで誰でも簡単に情報を発信できる時代です。良い学びが沢山あると思うので、ぜひ今後またこの経験を活かして挑戦してみてください！応援しています。

○大学生Sさん

発表ありがとうございました。

今回の羽後町内でのインタビューをする前と後で何か新しい発見はありましたか？

普段何気なく使っているお店もどのような客層がいるのか、また、お店の方が何を大切にしているのかなど視点を交えるだけでこれまでにない魅力に気づいたのではないのでしょうか。チーム内で話し合いをして、共通点や相違点があると思います。個々人が感じたことに正解はありません。インタビューを通して繋がることのできた地域の方とのご縁やお話を聞く中で感じたこと全てが、皆さんにとっての学びだと私は考えています。羽後学という授業を通して、地域や自分について考えたことを、これからどう日常生活に取り入れていきたいのか、みなさんはもう自分でデザインしていけるはず。私も皆さんに負けじと挑戦し続けていきます。お互いに頑張りましょう！

○大学生Yさん

発表ありがとうございました。

みなさんが普段過ごしている羽後町の魅力は発見できたでしょうか？普段何気なく過ごしている地元には、意外な魅力が潜んでいたりします。今回みなさんは羽後町内でのインタビューを通し、自分たちが魅力を発見するだけでなく、その発見した魅力を記事にして伝える段階まで行ったと思います。自分の目と相手の目では、観点が異なるから自分が魅力だと思って相手に伝えようとしてもなかなか難しかったはず！今回の活動は、羽後町の魅力を発見するだけでなく、自分の伝えたいことをうまく相手に伝える方法も学べたと思います！羽後学を通して、社会に出てから実際に必要になるさまざまな力を身につけることができたはずですよ。

今回の羽後学で学んだことを忘れずに、今後にしっかり生かして行ってください！応援しています！



羽後学発表会 慶應義塾大学生からのメッセージNo.4

サバイバル 災害でライフラインがストップした時に生き抜く知恵を調査。火起し実験にも挑戦！

○大学生Kさん

《活動内容に対して》

災害が多くなっている現代において、サバイバルできる能力が大事であるという活動のきっかけに共感しました。特に、火を起こせるようになるということと学校にある火起こし機や乾電池などを駆使して活動していたとかが伝わって来ました。火を起こす方法をインターネットで調べたりしていたので、火起こし機以外でも挑戦してみて、それでも火がつかなかったとしたら、その原因を調べるなどする活動も面白いなと思いました、



《プレゼンに対して》

火起こし機での実践はとても良かったと思いました。使って見ると、バランスを保つことが難しかったりすることが、プレゼン中に実演することで伝わったのではないかと思います。

《今後について》

実際に災害が起きた際に火起こし機が近くになくても、今回の活動で摩擦の力で熱が発生することや、近くに燃えやすいものを置くと火が大きくなることなどが経験としてわかったと思うので、その知識を活かしていざという時に活躍して欲しいと思います。

○大学生Yさん

発表ありがとうございました。そして、スライドに名前も入れてくださってありがとうございました。とても嬉しかったです。最初に火起こしに到るまでの思考の過程を紹介してくれていたのが挑戦への意味合いが聞いている皆さんに伝わったのではないかと思います。火起こしをする機会は中々持つことが出来ない中で、自分たちで火をつける方法を沢山調べ、模索しながら実現に辿り着けたことは非常に意味があったのではないのでしょうか。

ただ、当初はサバイバル状態になった時に道具を持っているとは限らないと思います。

今回中々時間がない中で自然の道具を使って火をつける案は実現出来ませんでした。せっかくなので今回の経験と知識を活かした上でもしもの時に備えた実践をまたしてみてもらえると今までの活動に更に意味が出て来るのかなと感じます。今後ぜひ、この経験を活かして行ってください。応援しています！

○大学生Sさん

発表ありがとうございました。サバイバルチームとして学んできていかがでしたか？近年、地震、豪雪など予測のつかない自然災害がたくさん起こっています。そのような状況下で、人々はどう生き抜いていくのがとても大切になってくるのではないのでしょうか。今回のサバイバルチームで学んだことは今すぐに活かすことができなくても、いつか必ず役に立つと思います。何かあった時に、自然の中にあるものを生かして自分はどう動くのかを考えながら、何かあった時のために家族や友達と事前に話しておけると良いと思いました。今回の羽後学だけではなく、これから自分が挑戦したいことや、そう想った気持ちを大切にしてみてください。私も挑戦し続けられる人でありたいと思っていますので、お互いに頑張りましょう。



羽後学発表会 慶應義塾大学生からのメッセージNo.5

スマイルプロジェクト コロナ禍で様々な制約を受けている高齢者や子ども達のためにできることを考え、今回は子育て支援センター祭に参加し、親子で楽しめるコーナーを企画・運営しました。

○大学生Kさん

《活動内容に対して》

コロナ禍でも自分たちが笑顔を届けられることは何か考え、実際に行動に移してみたことが皆さんにとってすごく大きな経験になったのだなと思いました。非常に素敵な活動だと思いました。

《プレゼンに対して》

大変だったことなど苦労も入れながら説明することで非常に共感できるプレゼンでした。また非常にプレゼン自体聞きやすく、スライドも工夫されており、非常に良かったです。一人一人の感想も聞くことができ、素晴らしかったと思います。

《今後について》

この経験を生かし、そんなに大きなことでなくても皆さんの私生活の中で、「自分に何かできることはないか」と考え、行動してみるとさらに皆さんの成長に繋がるのではないかと思います。責任感だけではなく、自分が楽しいと思うかどうかという視点も大切にしてみてください。

○大学生Yさん

発表ありがとうございました。プロジェクトの意味、背景を最初に伝えてくれたのでとてもわかりやすかったです。また、活動内容についても日付順で写真での様子つきで活動報告をしてくれたので過程もとてもわかりやすかったです。実践を通して笑顔で帰ってくれた時に得た感情だったり、その経験そのものがとても貴重なものだったのかなと思います。また、子どもとの関わりを通して高校生の皆さんにも学びがあったのはもちろん、子どもたちにも学びがあったのではないかと思います。双方の学び合いを意識した上で企画を考えられると、また違った色が出てくるかもしれませんね。今後もこの経験を活かして頑張ってください！



○大学生Nさん

はじめに、今学期の羽後学で温かく迎え入れてくださり、ありがとうございました。今学期の羽後学ではオンライン参加ということもあり、なかなか大学生らしいサポートができず申し訳なかったなと感じています。一方で、すごく行動的に活動をしている姿を見ながら（授業時間中に先生の車で学校出た！！って驚いていました笑）「ああ、高校の授業でこんな経験ができるっていいなあ！」とも思っていました。なので、羽後町に滞在できるようになったらぜひ対面で参加させてください！

活動お疲れ様でした！

まず課題/活動設定が素敵だと思っていました。「何をしたいか」だけでなく「求められているものは何か」までを考えていた点です。そして実際に“学外”活動したという点がとても凄いなと思います。学校の外では良くも悪くも自己の責任が伴います。羽後学の一環ではあるにしろ、能動的に学外で活動をしたという点は今後の大きな財産になると思います！また、今後活かせることとして、「高校生特権」を良い意味で悪用して欲しいなと思います。今回の子育て支援センターさんのように、学生という身分でなにか協力をお願いするとかなり多くの人は協力してくれます。社会人なら「スーツと企画書とアポ」を揃えて行かなければ跳ね返されることでも「高校生の提案」だと割と受け入れてくれる人もいます。「介護施設でこんな事やりたいのですが〜」「図書館の一角をお借りして〜」などなど、高校生の特権を存分に悪用してもらえたらなと思います。

羽後学のような活動から得られる「学び」は、目に見えるものだけではないと思っています。いわゆる「勉強」のように“〇〇ができるようになった！”“〇〇だとわかった！”という受動的な「学び」だけではなく、言葉にはうまく表せないけど『何か得られた！』『あの時の経験が生きた！』といった能動的な「学び」の機会になったのではないかなと思っています。

今回のような活動では何か具体的に得るもの（〇〇ができるようになった/わかった！）はあまり多くなかったのではないのでしょうか。他方、自分の感性から何かを得られたと思います。自分の心が何かを感じ取り、何かを得る、それは自分を一歩成長させてくれるものだと思っています。ですから、今後も「能動的な学び」を大切にしていってもらえたらなと思います。みらいクリエイティティ部という活動では「能動的な学びの機会」を目指して活動しているので、今回の羽後学でできなかったことはぜひここで挑戦してみてください！僕たち大学生一同、全力でサポートします！

